

平成 17 年度
2 回生進級時アンケート
報告書



2 0 0 6

高等教育研究開発推進機構

高等教育研究開発推進センター・

京都大学教育交流会プロジェクト

目 次

はじめに——調査の趣旨と概要.....	1
1 回答者の属性.....	3
2 学習意欲などの変化.....	4
2. 1 学習意欲の変化.....	4
2. 2 出席コマ数の変化.....	5
2. 3 授業外学習時間の変化.....	5
2. 4 学習意欲・出席コマ数・授業外学習時間の相関.....	6
3 「満足した科目」「不満だった科目」.....	8
3. 1 「満足した科目」とその理由.....	8
3. 1. 1 科目群別の集計.....	8
3. 1. 2 「満足した理由」の分析.....	10
3. 2 「不満だった科目」とその理由.....	13
3. 2. 1 科目群別集計.....	13
3. 2. 2 「不満だった理由」の分析.....	15
4 成績評価への納得度.....	18
4. 1 成績評価に納得できなかった理由.....	18
4. 2 成績評価全体への納得度.....	20
5 全学共通科目への期待.....	22
5. 1 全学共通科目に期待する内容.....	22
5. 2 学習意欲と期待内容との相関.....	23
5. 3 期待は実現されたか.....	24
5. 4 期待実現度と他の変数との相関.....	25
6 今後の全学共通教育への要望.....	26
7 自由記述より.....	30
おわりに.....	34
【資料】 平成17年度2回生進級時アンケート用紙.....	37

はじめに——調査の趣旨と概要

高等教育研究開発推進機構では平成16年度より、学部新2回生全員を対象とした「2回生進級時アンケート」を実施している。その目的は、学生が入学後1年間の大学生活の中で京都大学の教育に対してどのような感想を抱いたかについて、2回生進級時点での意見を聞き、今後の京都大学の教育を改善・充実してゆくための資料とすることにある。

この調査の前提として、平成15年度より、学生には新入生ガイダンスの際、入学にあたっての抱負とガイダンスを受けてのこれからの期待などを自由に記してもらった「新入生アンケート」を実施している¹。「2回生進級時アンケート」では、その時の回答を学生個人々に返却し、1年前の自分自身の抱負・期待を読み返しつつ、1回生時の全学共通科目を中心にした学習を振り返って、どんなことを感じあるいは考えたかについて率直な意見を表明してもらうよう求めている。

今回、第2回目となる平成17年度（平成16年度入学生対象）の「2回生進級時アンケート」では、高等教育研究開発推進センターの「京都大学教育交流会プロジェクト」²（以下、「交流会プロジェクト」）に協力を依頼し、アンケート調査内容の企画および結果の分析を、同プロジェクト「学生意識調査ワーキンググループ」の教員・学生に委嘱した。平成16年度に発足した同プロジェクトは、学生と教職員の共同参画を基調として、自由の学風の理念を継承した新しい京都大学の教育のあり方を探ることを目指して活動しており、この報告書作成もその活動の一環となるものである。

調査の概要は次の通りである。アンケート用紙の配布は、平成17年4月4～6日、各学部新2回生への1回生後期成績表交付時におこなった。工学部および医学部医学科については吉田南1号館106号室が交付場所となり、その場で「交流会プロジェクト」の学生実行委員と教員がアンケート協力の呼びかけをおこない、記入場所を設けて回収をおこなった（写真右）。その他の学部については、各学部の教務掛窓口などが交付場所となり、4月25日までに窓口前に設置されている専用ポストに入れるか、または同封の返信用封筒（料金受取人払）にて郵送での回答を依頼した。

回収状況は表0-1に示したとおりであり、回答総数は1221件、回収率は41.8%であった。



¹ 第1回・平成15年度入学者「新入生アンケート」の結果はすでに報告書としてまとめられ、高等教育研究開発推進機構ホームページ <http://www.z.k.kyoto-u.ac.jp> に掲載されている。

² 詳細は、交流会プロジェクトのホームページ <http://pack.k.kyoto-u.ac.jp> を参照。

学部名	在籍者数			提出者数			提出率
	計	男	女	成績 交付時	郵送等	合計	
総合人間学部	136	92	44		41	41	30.1%
文学部	208	105	103		56	56	26.9%
教育学部	63	25	38		22	22	34.9%
法学部	358	264	94		69	69	19.3%
経済学部	257	222	35		38	38	14.8%
理学部	299	280	19		90	90	30.1%
医学部	239	136	103	69	26	95	39.7%
薬学部	89	58	31		23	23	25.8%
工学部	966	896	70	682	40	722	74.7%
農学部	303	238	65		59	59	19.5%
学部名不明				4	2	6	
計	2918	2316	602	755	466	1221	41.8%

表0-1 アンケート回収状況

以下、本報告書では、原則としてアンケート用紙の設問順に回答の集計・分析の結果を示すとともに、若干のコメントを添えていくこととしたい³。

なお、いくつかの設問については回答の集計を「文系」「理系」別におこなっている。「文系」は回答者の所属学部が総合人間（文系）、文、教育、法、経済の各学部のケース、「理系」は総合人間（理系）、理、医、薬、工、農の各学部のケースをそれぞれ抽出して集計したものである⁴。

³ アンケート用紙全文は本報告書の末尾に資料として添付した。

⁴ 学部名不明のケースは「文系」「理系」別集計から除外した。

1 回答者の属性

問1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男 2 女

問2 あなたの所属学部をお答えください（総合人間学部は、人間科学系・国際文明学系・文化環境学系の方は「文系」、認知情報学系・自然科学系の方は「理系」を選んでください）。

- 1 総合人間学部（文系） 2 総合人間学部（理系） 3 文学部
 4 教育学部 5 法学部 6 経済学部 7 理学部
 8 医学部 9 薬学部 10 工学部 11 農学部

回答者の属性（性別および所属学部）の人数・構成比は下記図1-1および図1-2に示したとおりである⁵。

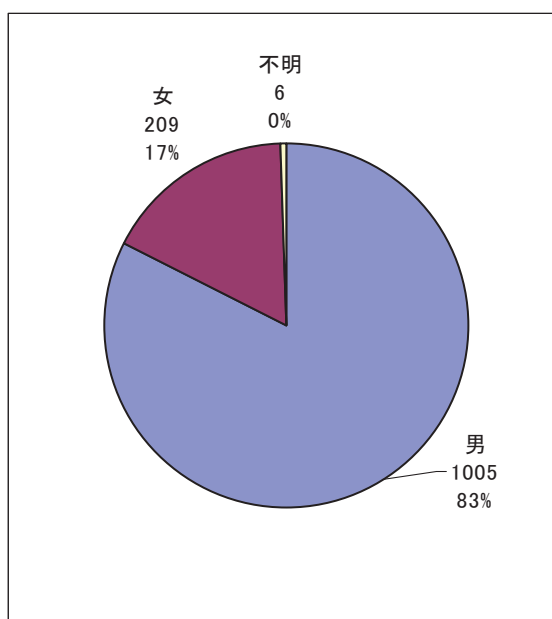


図1-1 性別人数・構成比

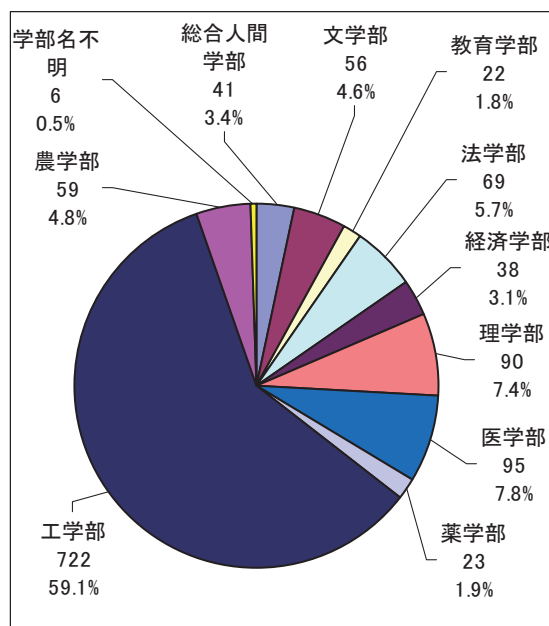


図1-2 学部別人数・構成比

⁵ 工学部の比率が際立って高いのは、「はじめに」で述べたとおり、成績交付場所でアンケート協力の呼びかけをおこなったためである。

2 学習意欲などの変化

問3 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から1回生後期半ばまでに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

（学習意欲）1. 非常に意欲あり 2. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
4. あまり意欲なし 5. まったく意欲なし

（作成例）

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後期半ば		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	5	15コマ	1.5時間
前期半ば	4	〃	〃
後期開始	4	4コマ	3時間
後期半ば	4	〃	〃

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

2.1 学習意欲の変化

1回生の4つの時期を通しての学生の学習意欲の変化を全学部、文系、理系の別に平均値で見ると、図2-1のようになった。全体として、入学当初にはかなり高かった学習意欲が、時期が進むにつれて少しずつではあるが低下していく状況がみてとれる。また、どの時期においても文系学生のほうが理系学生よりも若干学習意欲が高い⁶。

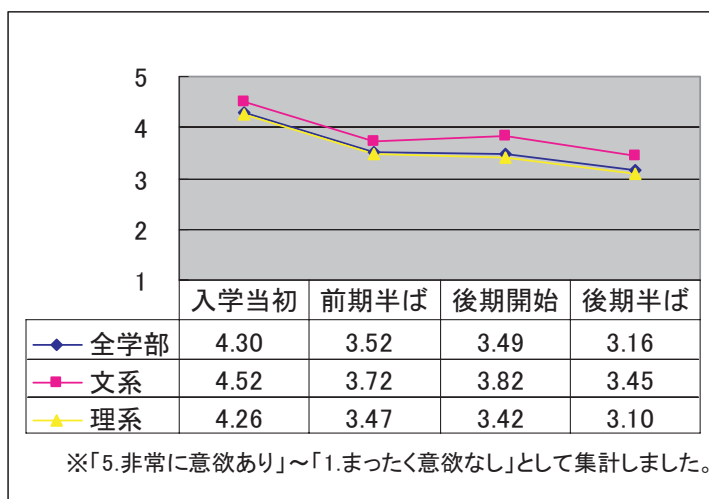


図2-1 学習意欲の変化

⁶ 分散分析の結果、どの時期においても1%水準で有意。

2. 2 出席コマ数の変化

同様に、出席コマ数の変化は図2-2のようになった。入学当初は平均17~18コマ出席していたのが、徐々に減少し、後期半ばには平均12~13コマとなっている。4つの時期を通じて、文系・理系のあいだで出席コマ数の有意差はほとんど認められなかった。これは、理系のほうが実験・実習などを含めクラス指定科目が多いため、平均出席コマ数も多いのではないかという常識的予想には反する結果といえる。

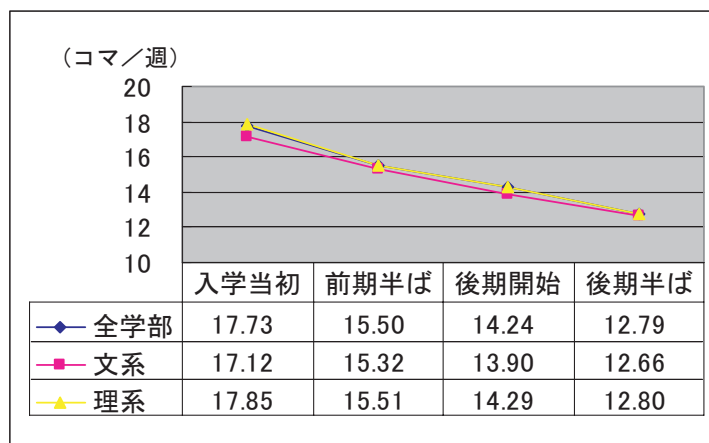


図2-2 出席コマ数の変化

2. 3 授業外学習時間の変化

同様に、授業外学習時間の変化は図2-3のようになった。出席コマ数が徐々に減少していたのに対し、授業外学習時間はほとんど変化していないことがわかる。また、どの時期においても、文系学生のほうが理系学生よりも授業外学習時間が長い⁷。

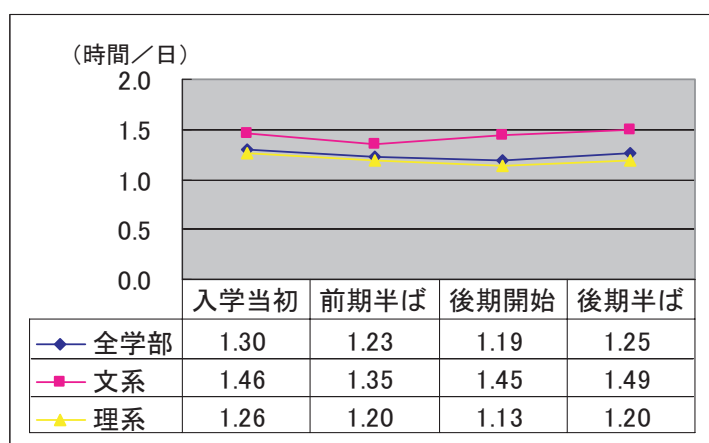


図2-3 授業外学習時間の変化

⁷ 分散分析の結果、入学当初では5%水準、後期開始・後期半ばでは1%水準で有意。

2. 4 学習意欲・出席コマ数・授業外学習時間の相関

それでは、学生の学習態度の変化を示す3つの変数（学習意欲・出席コマ数・授業外学習時間）のあいだには、相互の連関はあるのだろうか。4つの時期それぞれについて、3変数間の相関係数を算出した結果が表2-4-1である。すべての時期を通じて、3つの変数間には有意な正の相関がみられる。すなわち、学習意欲が高い学生ほど、出席コマ数が多く、授業外学習時間も長いことがわかる。

	入学当初	前期半ば	後期開始	後期半ば
学習意欲 × 出席コマ数	0.299 **	0.487 **	0.441 **	0.491 **
学習意欲 × 授業外学習時間	0.209 **	0.368 **	0.326 **	0.409 **
出席コマ数 × 授業外学習時間	0.133 **	0.248 **	0.171 **	0.194 **

** 1%水準で有意（両側検定）

表2-4-1 「学習意欲」「出席コマ数」「授業外学習時間」間の相関

ただし、出席コマ数と授業外学習時間との相関については、学習意欲という共通の規定要因による疑似相関である可能性がある。それを検証するため、それぞれの時期の学習意欲を制御変数とした偏相関分析をおこなった。その結果が表2-4-2である。入学当初および前期半ばについてはやはり有意な正の相関がみられるが、相関係数の値は表2-4-1と比べるとずっと低くなっている。さらに後期になると、もはや有意な相関はみられない。すなわち、（とくに後期においては）学習意欲の高低で学生をグルーピングし、それぞれのグループ内だけでみた場合には、出席コマ数と授業外学習時間とのあいだにはほとんど関係がない（出席コマ数が多くても授業外学習時間が長いとは限らない）ことがわかった。

	入学当初	前期半ば	後期開始	後期半ば
出席コマ数 × 授業外学習時間	0.077 **	0.083 **	0.033	-0.008

** 1%水準で有意（両側検定）

表2-4-2 「学習意欲」を制御変数とした偏相関分析

いわゆる「単位の実質化」やCAP制（学年・学期ごとに履修可能単位数に上限を設ける制度）の導入をめぐる議論においては、「学生の履修コマ数を制限することによって授業外学習時間を確保させる」という論理がしばしばみられるが、上記の結果からみる限り、この論理は京都大学の学生には適用しにくいと思われる。なぜなら、履修コマ数の多寡・授業外学習時間の長短のいずれもが、学生本人の学習意欲という共通の変数によって規定されているのであり、機械的に履修コマ数を制限しても、それによって授業外学習時間が伸びることは統計的にみて期待できないと

考えられるからである（このことは上記2－3でみた、平均出席コマ数が減少しても平均授業外学習時間はほとんど変化しないという結果からも裏づけられる）。より重要なのは、学生自身の学習意欲をいかにして持続あるいは向上させるかという課題であるといえよう。

3 「満足した科目」「不満だった科目」

3. 1 「満足した科目」とその理由

問4 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。下記の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。また、それぞれの科目に満足した理由について、あてはまるすべてのものに○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時限	曜 限	曜 限	曜 限
科目名			
満足した理由	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった
	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた
	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた
	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた
	6 その他 ()	6 その他 ()	6 その他 ()

3. 1. 1 科目群別の集計

まず、この設問で「満足した科目」として回答のあった科目を、科目群別（および回答者の文系・理系別）に集計すると表3-1-1および図3-1-1のようになった。

全体（合計）では、A群科目が4割強、B群科目が4割弱と、この二つの科目群で約8割を占めている。文系学生ではA群科目が6割強と圧倒的に多くを占め、B群科目は2割弱にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が4割強と最多であり、A群科目はやや少なく4割弱である。この数字を見る限り、文系学生はA群科目に満足している比率が高く、理系学生はB群科目に満足している比率が高いという常識的予想を裏づける結果となっている。ただ、理系学生がA群科目に満足している比率に対し、文系学生がB群科目に満足している比率がとくに低いことは注目される。これは、後述の「満足した理由」「不満だった理由」の自由記述（p.12, 17）から

もうかがえるように、文系学生に十分に配慮したB群科目が少ないという学生の意識を反映しているとも考えられる。

	A群	B群	C群	D群	AB群	BD群	合計
全学部	778	697	150	38	128	65	1856
文系	302	68	30	7	34	26	467
理系	476	629	120	31	94	39	1389

表 3-1-1 「満足した科目」科目群別科目数

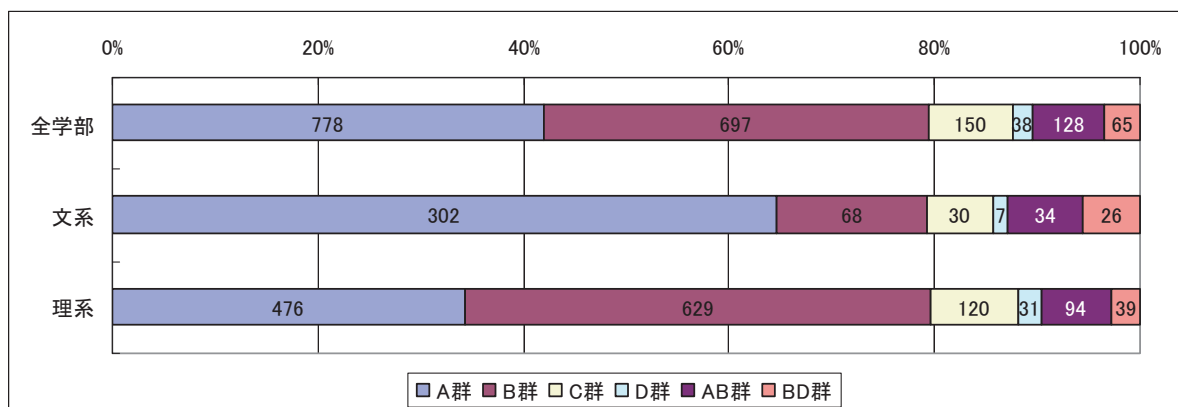


図 3-1-1 「満足した科目」科目群別科目数 (構成比)

3. 1. 2 「満足した理由」の分析

次に、「満足した理由」の各項目別の集計結果を図3-1-2に示した。

最重要項目（1つだけ選択）においても、任意選択項目（複数選択）においても、「授業の内容が興味深かった」が圧倒的に多くを占め、ついで「担当教員の熱意を感じた」「授業の進め方に工夫がみられた」「学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた」の順となっている。

この結果は、まず何よりも授業の内容そのものに対する興味・関心が、学生の「満足」感を大きく規定する要因となっていることを明確に示しているといえよう。

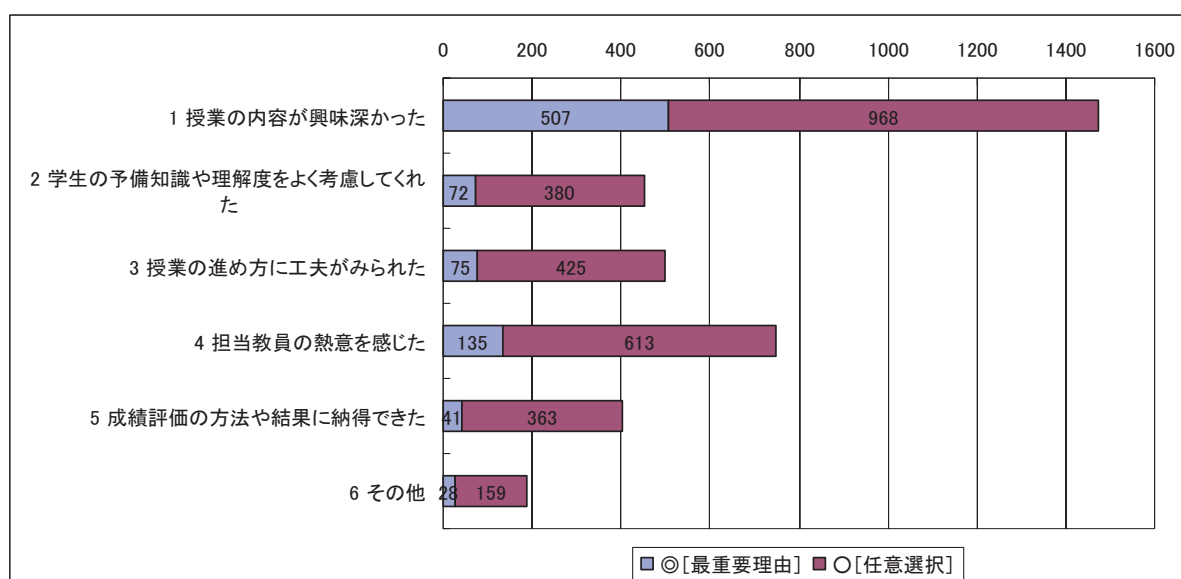


図3-1-2 「満足した理由」項目別集計

ところで、科目群によって「満足した理由」の内容には違いがあるのだろうか。それを明らかにするため、科目ごとに「満足した理由」の各項目を点数化し⁸、科目群別に平均点を計算した。その結果が表3-1-3および図3-1-3である。

「授業の内容が興味深かった」という理由は（すべての科目群でトップを占めているが）、とくにA群およびAB群、BD群科目において、他の科目群よりも高い比率で「満足」理由としてあげられている。同様に、「学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた」という理由はB群およびC群科目において、他の科目群よりも高い比率で「満足」理由としてあげられていることがわかる。これらの結果は、科目群によって学生の「満足」度を規定する要因にある程度の差異があることを示唆しているといえよう。

⁸ ○（任意選択項目）を1点、◎（最重要項目）を2点として計算した。

群	1 授業の内容が興味深かった	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	3 授業の進め方に工夫がみられた	4 担当教員の熱意を感じた	5 成績評価の方法や結果に納得できた	6 その他
A	1.14	0.19	0.26	0.47	0.25	0.12
B	0.98	0.39	0.34	0.43	0.21	0.11
C	0.76	0.40	0.43	0.59	0.41	0.13
D	0.76	0.24	0.32	0.42	0.18	0.24
AB	1.32	0.20	0.25	0.40	0.16	0.09
BD	1.14	0.12	0.42	0.69	0.17	0.08
合計	1.06	0.28	0.31	0.47	0.24	0.11

表3-1-3 科目群別「満足した理由」の平均点⁹

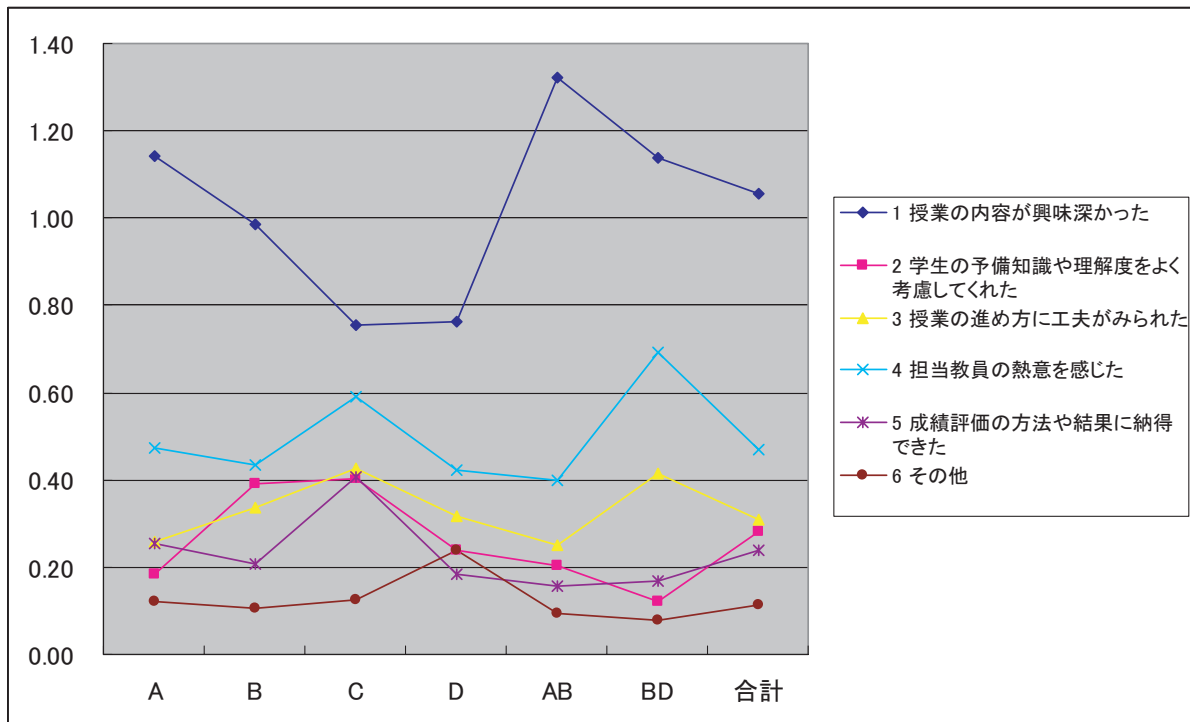


図3-1-3 科目群別「満足した理由」の平均点

⁹ 網掛けは、他の科目群に比べて平均得点がとくに高いセルを表示している（分散分析の結果1%水準で有意）。

なお、「満足した理由」の「6 その他」については、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容は千差万別であるが、次のようなものが比較的目立った。

【A群、AB群科目】

- 初めてのゼミだったが、話しやすい雰囲気できっかり学習できて良かった【法・女】
- ゼミ形式で自分も発言できるのがよかった【工・男】
- 学生と共に授業をする双方向性を感じとることができた【農・男】
など、学生の主体的参加や授業の双方向性を評価する意見、および
- 毎週違った人を講師に呼んで話してもらい形式でいろんな話がきけておもしろかった【工・男】
- 雑学に満ちた授業であるが本筋は、はっきりと見える【理・男】
など、内容の多様性を評価する意見。

【B群科目】

- このような（文系の人でも興味をもって学べる）講義をもっと増やしてほしい【経済・男】
- 専門的な内容が多いB群だが、これは文系の人にも理解できる【理・男】
など、文系の学生への配慮があったことを評価する意見、および
- フィールドワークが非常に楽しかった【理・男】
- 野外での授業には、感動を覚えた【理・男】
など、フィールドでの実地体験ができたことを評価する意見。

【C群科目】

- ネイティブの先生と話せて良かった【工・男】
- 先生に親しみやすかった【法・男】
など、教員との緊密なコミュニケーションを評価する意見。

【D群、BD群科目】

- ただ運動するだけでなく、体に関する色々な事も教えてくれた【教育・男】
- 僕らが健康についていかに誤解しているかがわかった【農・男】
など、健康・身体に関する認識の向上がえられることを評価する意見。

3. 2 「不満だった科目」とその理由

B. あなたがとくに不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。次頁の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。また、それぞれの科目に不満だった理由について、あてはまるすべての箇所に○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時限	曜 限	曜 限	曜 限
科目名			
不満だった理由	1 授業の内容に興味をもてなかった	1 授業の内容に興味をもてなかった	1 授業の内容に興味をもてなかった
	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
	3 授業の進め方に工夫がみられなかった	3 授業の進め方に工夫がみられなかった	3 授業の進め方に工夫がみられなかった
	4 担当教員が不熱心だった	4 担当教員が不熱心だった	4 担当教員が不熱心だった
	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
	7 その他 ()	7 その他 ()	7 その他 ()

3. 2. 1 科目群別集計

この設問についても、まず「不満だった科目」として回答のあった科目を、科目群別（および回答者の文系・理系別）に集計した。その結果が表3-2-1および図3-2-1である。

「不満だった科目」として回答のあった科目の総数は延べ968件であり、「満足した科目」の総件数1856に比べると約半数である。全体（合計）ではB群科目が5割強と最多で、ついでA群科目が3割弱となっており、やはりこの二つの科目群で約8割を占めている。文系学生ではA群科目が5割強と最多であり、B群科目は3割弱にとどまっているのに対し、理系学生ではB群科目が6割強を占め、A群科目は2割強となっている。先述の「満足した科目」のちょうど裏返しに、「不満だった科目」に関しても、文系学生はA群科目に対して、理系学生はB群科目に対して、それぞれ、より多くの不満を抱く傾向があることがわかる。

	A群	B群	C群	D群	AB群	AC群	ABC群	BD群	合計
全学部	270	539	103	4	23	1	1	27	968
文系	109	59	26	2	4	0	0	15	215
理系	161	480	77	2	19	1	1	12	753

表 3-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数

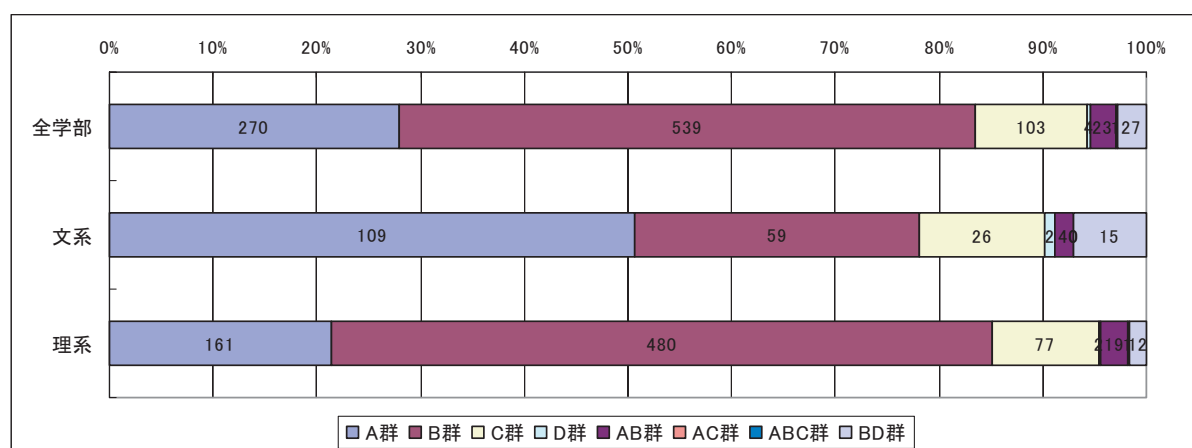


図 3-2-1 「不満だった科目」科目群別科目数（構成比）

3. 2. 2 「不満だった理由」の分析

次に、「不満だった理由」の各項目別の集計結果を図3-2-2に示した。

最重要項目（1つだけ選択）としては「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」が最多であり、ついで「授業の進め方に工夫がみられなかった」「成績評価の方法や結果に納得できなかった」の順となっている。任意選択項目（複数選択）を加えた総数としては、「授業の進め方に工夫がみられなかった」「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」「授業の内容に興味をもてなかった」の順となっている。

この結果を先述の「満足した」理由と比較対照してみると、「満足」感に関しては授業の内容に対する興味・関心が圧倒的に大きな要因となっているのに対し、「不満」感に関しては授業の進め方や学生の予備知識・理解度への考慮といった技術的要因が比較的多くを占めていることがわかる。

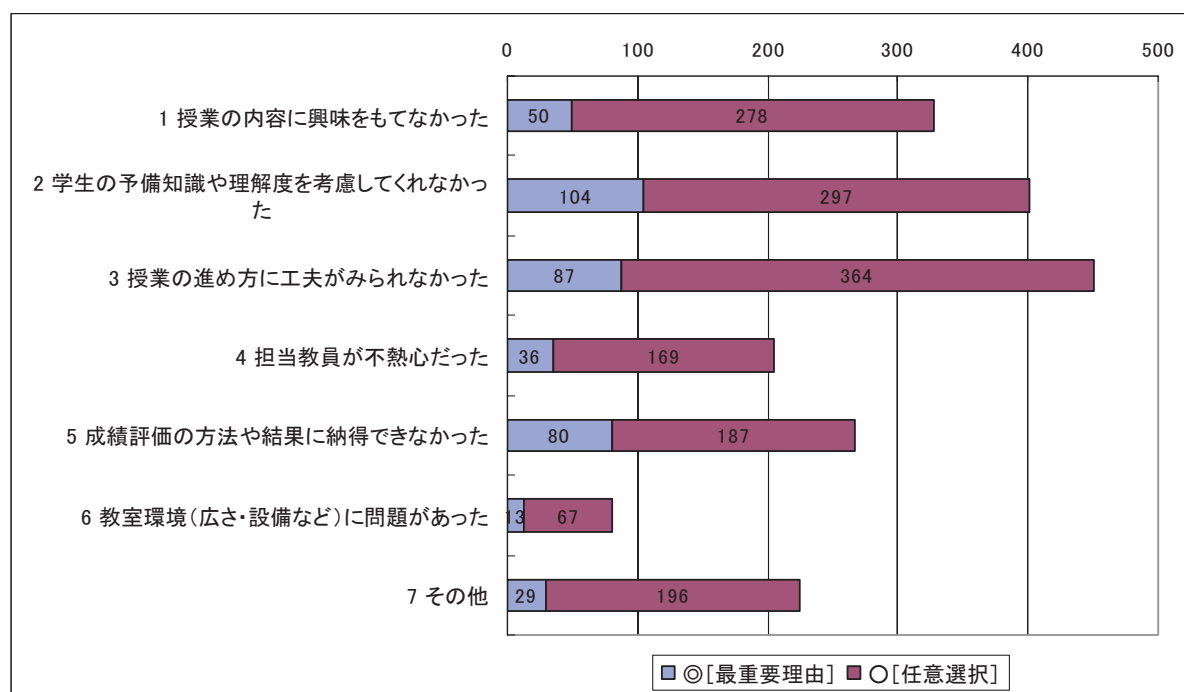


図 3-2-2 「不満だった理由」項目別集計

次に、やはり「満足した科目」のときと同様に、「不満だった理由」の内容にも科目群によって違いがあるかどうかを調べてみた。科目ごとに「不満だった理由」の各項目を点数化し¹⁰、科目群別に平均点を計算した結果が表3-2-3である。

「授業の内容に興味をもてなかった」という理由はA群、C群、およびAB群科目において、「学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった」という理由はB群およびC群科目において、

また「成績評価の方法や結果に納得できなかった」という理由はA群、C群およびBD群科目において、それぞれ、他の科目群よりも高い比率で「不満」理由としてあげられていることがわかる。この結果は、多くの点で先述の「満足した理由」の科目群別内訳の裏返しになっており、とくにA群科目においては授業の内容への興味関心が、B群科目においては学生の予備知識・理解度への考慮が、それぞれ「満足」「不満」を規定する重要な要因になっていることを示唆しているといえよう。

群	1 授業の内容に興味をもてなかった	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった	3 授業の進め方に工夫がみられなかった	4 担当教員が不熱心だった	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった	6 教室環境(広さ・設備など)に問題があった	7 その他
A	0.49	0.27	0.50	0.26	0.41	0.13	0.31
B	0.33	0.69	0.59	0.24	0.29	0.07	0.20
C	0.41	0.44	0.57	0.22	0.39	0.06	0.38
D	0.00	0.25	0.50	0.25	0.25	0.00	0.75
AB	0.52	0.17	0.43	0.04	0.22	0.39	0.17
BD	0.22	0.04	0.07	0.30	0.85	0.07	0.19
合計	0.39	0.51	0.55	0.24	0.35	0.10	0.25

表3-2-3 科目群別の「不満だった理由」の平均点¹¹

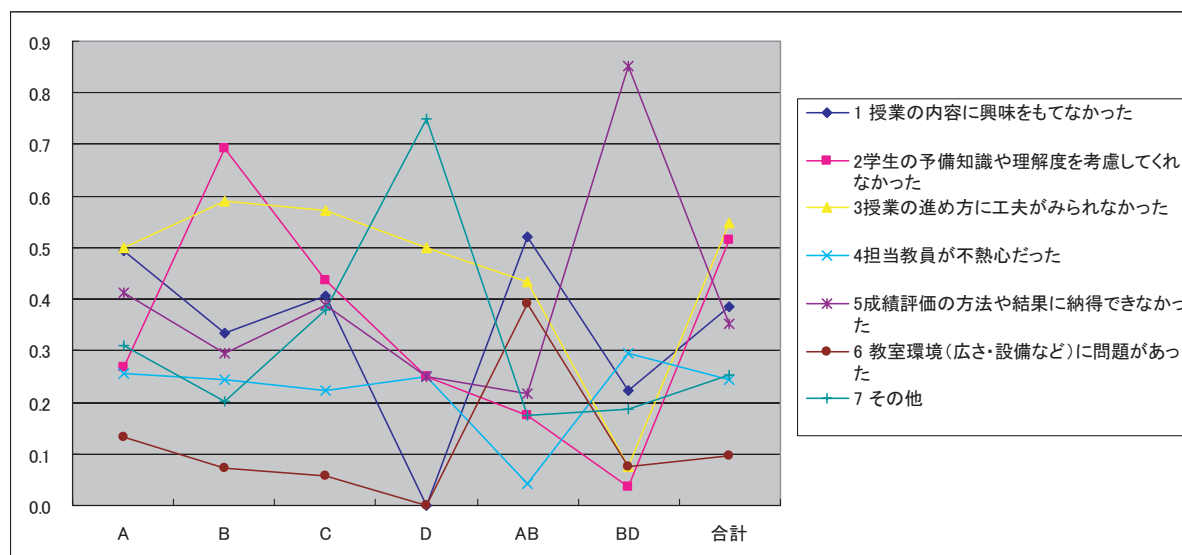


図3-2-3 科目群別の「不満だった理由」の平均点

¹⁰ ○ (任意選択項目) を1点、◎ (最重要項目) を2点として計算した。

¹¹ 網掛けは、他の科目群に比べて平均得点がとくに高いセルを表示している (分散分析の結果1%水準で有意)。AC群、ABC群科目がそれぞれ1件ずつあったが、AC群はA群に、ABC群はAB群に、それぞれ含めて計算した。

「不満だった理由」の「7 その他」についても、その内容を自由記述方式で尋ねている。その記述内容もやはり千差万別であるが、次のようなものが比較的目についた。

【A群、AB群科目】

- ゼミなのに、みんなで学ぶ、討論する、といったコミュニケーション的要素がなかった【法・男】
- 一部学生が自分勝手な発言をして、議論と言えるものではなかった【理・男】
など、学生の主体的参加ができなかったことへの不満（これは先述の「満足した理由」の自由記述にみられた主体的参加への評価の裏返しになっている）、および、
- 話し方がもごもごしてて、よく聞き取れなかった【法・男】
- 字がていねいでなくよく見えなかった【工・男】
など、技術的問題についての指摘。

【B群科目】

- 文系向きとしながら文系には不可能なレポート課題【法・男】
- 文系が、高校で数Ⅲ-Cを習っていないことを配慮して欲しい【文・男】
など、文系学生への配慮の不足に対する不満（これも先述の「満足した理由」の自由記述にみられた文系学生への配慮に対する評価の裏返しとなっている）、および
- 板書の字が小さい、汚く、読めなかった【理・男】
- 先生の声が聞こえない。内容は教科書の丸写しみたい【工・女】
など、(A群科目と同様に)主として技術的問題についての指摘。

【C群科目】

- 選択できないから【文・男】
- クラス指定であるため、他の授業がとれなかった【理・男】
など、クラス指定制度に対する不満。

【D群、BD群科目】

ごく個別的な記述しかみられなかったので、ここでは省略する。

なお、「満足した科目」「不満だった科目」として回答のあった具体的な科目名（および個々の「満足」「不満」の理由）のデータについては、本報告書のなかで公表することは差し控えたい。それらのデータは科目群ごとに整理し、教養教育専門委員会の各群科目部会および基礎教育専門委員会に、今後の教育改善に役立てていただくための資料として送付したことを付記しておく。

4 成績評価への納得度

- 問5 1 回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。
- A. 個々の科目の成績評価について、納得できなかった場合、その理由は何ですか。あてはまるすべての番号に○を（最も重要なものには◎を）付けてください（成績評価に納得できない科目が一つもなかった場合は、6を選んでください）。
- 1 成績評価が厳しすぎる
 - 2 成績評価が甘すぎる
 - 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
 - 4 成績評価の基準・方法が不公正である
 - 5 その他（ ）
 - 6 成績評価に納得できない科目はなかった
- B. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。
- 1 納得している
 - 2 どちらかといえば納得している
 - 3 どちらかといえば納得できない
 - 4 納得できない

4. 1 成績評価に納得できなかった理由

問5 Aへの回答を項目別に集計した結果が、図4-1である。

「成績評価に納得できない科目はなかった」と回答した学生は415人であり、これと問5 Aの全項目に無回答の105人とを除くと、701人（回答総数1221人の57.4%）が、成績評価に納得できない科目があったと考えていることになる。納得できなかった理由については、最重要項目（1つだけ選択）においても任意選択項目（複数選択）においても、「成績評価の基準・方法が明確に示されていなかった」が圧倒的に多数を占め、ついで、最重要項目においては「成績評価の基準・方法が不公正である」が、任意選択項目においては「成績評価が厳しすぎる」が、それぞれ第2位となっている。

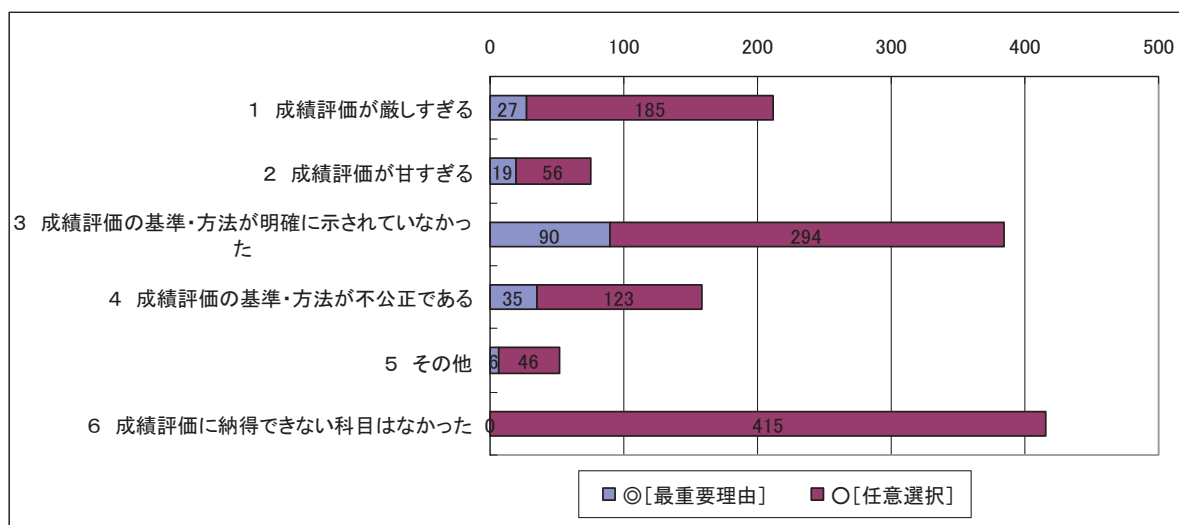


図4-1 成績評価に納得できなかった理由・項目別集計

「納得できなかった理由」の「5 その他」の自由記述の内容は多岐にわたり、実質的に1～4の各項目に該当すると考えられるものも含まれるが、比較的目的立ったのは下記のような趣旨の回答であった。

■成績評価の基準・方法への疑念（努力が評価されない、あるいは努力しなかった者が評価される、など）。

- 努力した学生も、楽した学生も同じ単位というのはおかしい 【総人（文系）・男】
- 全然できてないやつが合格してたり、逆もあつたり 【工・男】
- カンニング、レポートの丸写しが野放し、正直者が馬鹿を見る結果 【工・男】
- ある授業で、レポートを一生懸命書いたのに「合格」か「不可」しか示されず、ガッカリした、仕方ないけど… 【文・女】
- 試験を受けていないのに合格していた 【理・女】
- しっかりレポート出したのに0点はないと思う。（レポート評価の授業） 【医・女】
- レポート出したのに0点だった 【医・男】
- ちゃんと出席して課題をだしたのに0点だった 【工・男】
- もっとレポートの内容を見てほしい 【農・女】
- 提示されていた成績評価に沿った評価であると思えなかった 【総人（文系）・女】
- 示されてはいたが、その通りにしたのに不合格だった 【文・女】
- 採点ミスが多すぎる 【法・男】
- いいかげんに成績をつけていると思われる科目がある（ほとんどの科目の成績評価はきちんと行われているが） 【経済・男】

■授業・教員によって評価基準にばらつきがあるという指摘。

- 同一科目であっても教員ごとに基準が違ったから 【文・男】
- それぞれの科目の成績評価にバラつきがありすぎる 【経済・男】
- 科目ごとの単位の取りやすさにバラつきがある 【法・男】
- 科目により、同じ評価でも重さが全然違う 【法・女】
- 教授によって成績評価基準が異なる 【経済・男】
- 教授によって評価にバラツキがある 【理・男】
- 成績評価の基準が授業によってバラバラで厳しいのもあれば甘いのもあった 【医・女】
- 教員によって差がありすぎる 【工・男】
- 前期、後期で同系列の科目の評価方法が違いすぎる 【工・男】
- 科目間で難易のばらつきがありすぎる 【農・男】

■成績評価のフィードバックへの要求。

- 悪い評価の理由を個人に教えてくれればなおせるのに。【文・女】
- テスト結果がかえってこない（間違いがわからない）【工・男】
- 自分の解答用紙を返却できる環境にしてほしい【工・男】

4. 2 成績評価全体への納得度

問5B（全体として自分の成績評価に納得しているか）の回答の集計結果は、図4-2のとおりであり、「納得している」「どちらかといえば納得している」をあわせると85.5%となる。

この数字を見る限り、全学共通科目の成績評価全体に対しては、大半の学生がほぼ納得しているといえる。しかしながら、先述のように57.4%の回答者が「成績評価に納得できない科目があった」と回答していることと考え合わせてみると、全体としてはほぼ納得しているも、一部の科目の成績評価に対しては納得できない思いを抱いている学生が相当数存在するのではないかと考えられる。

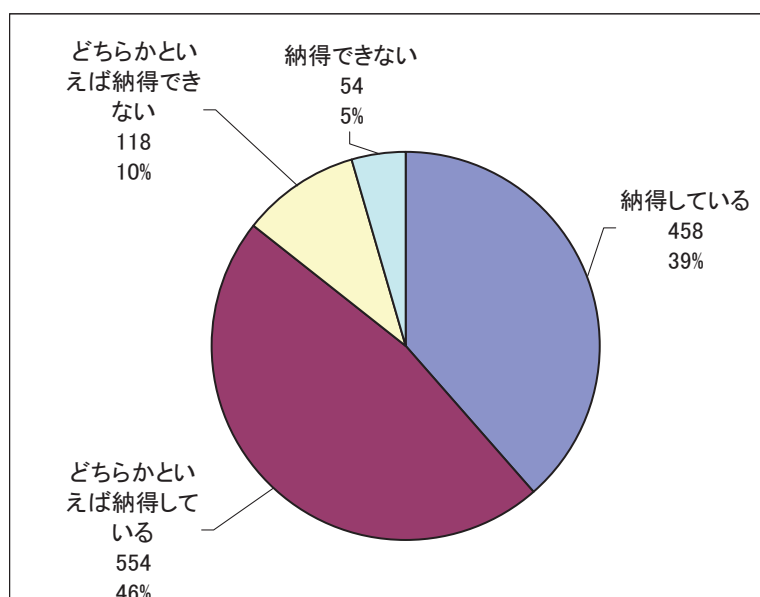


図4-2 成績評価全体への納得度

それでは、成績評価全体への納得度が低い場合、それはどのような理由によるものだろうか。それを分析するために、「成績評価に納得できなかった理由」の各項目と、成績評価全体への納得度との相関係数を算出した¹²。その結果が表4-2であり、「成績評価の基準・方法が明確に示さ

¹² 「納得できなかった」理由は、○（任意選択項目）を1点、◎（最重要項目）を2点とした。成績評価全体への納得度は、「納得している」を4点、「どちらかといえば納得している」を3点、「どちらかといえば納得していない」を2点、「納得していない」を1点とした。

れていなかった」だけが、成績評価全体への納得度とのあいだに有意な負の相関があることがわかる。各科目の成績評価の基準・方法が明確に示されているかどうか、成績評価全体に対する学生の納得度を左右する重要な要因になっていると考えられる。

	全体として、自分の成績評価に納得しているか
成績評価が厳しすぎる	0.007
成績評価が甘すぎる	-0.198
成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていないかった	-0.147 **
成績評価の基準・方法が不公正である	-0.073
その他	0.061

** 1%水準で有意（両側検定）

表 4-2 成績評価に納得できなかった理由と
成績評価全体への納得度との相関係数

5 全学共通科目への期待

5. 1 全学共通科目に期待する内容

問6 あなたは全学共通科目で学ぶ内容として、次の各項目をそれぞれどの程度期待していますか。

	期待している		期待していない	
	どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば	どちらかといえば
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員個人の知識や経験	1	2	3	4

まず、この設問への回答の単純集計の結果を図5-1-1に示そう。

最も「期待している」という回答が多かったのは「専門以外の幅広い知識・教養」であり、ついで「専門での勉強の基礎」「実用的な知識・技能」「教員個人の知識や経験」の順となった。

ただし文系・理系別にみると、「専門以外の幅広い知識・教養」「教員個人の知識や経験」への期待は理系より文系のほうが、「専門での勉強の基礎」「実用的な知識・技能」への期待は文系より理系のほうが、それぞれ高いことがわかる（図5-1-2、図5-1-3）。

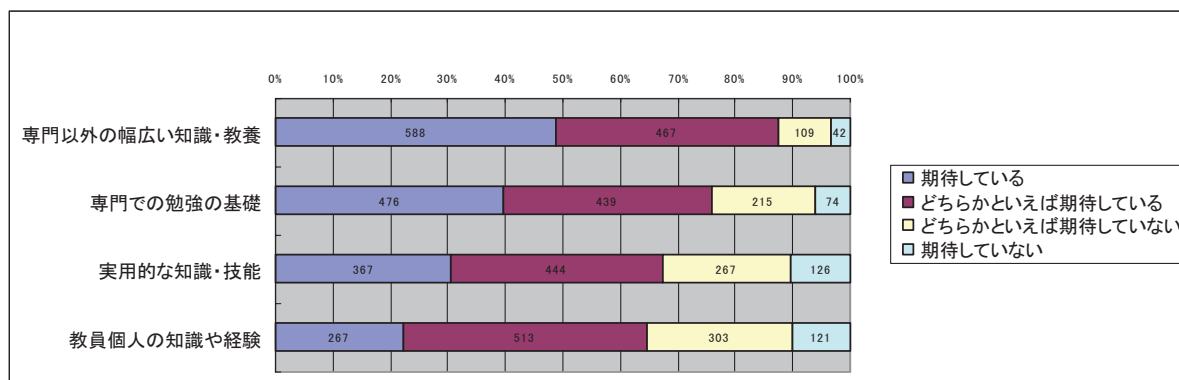


図5-1-1 全学共通科目に期待する内容

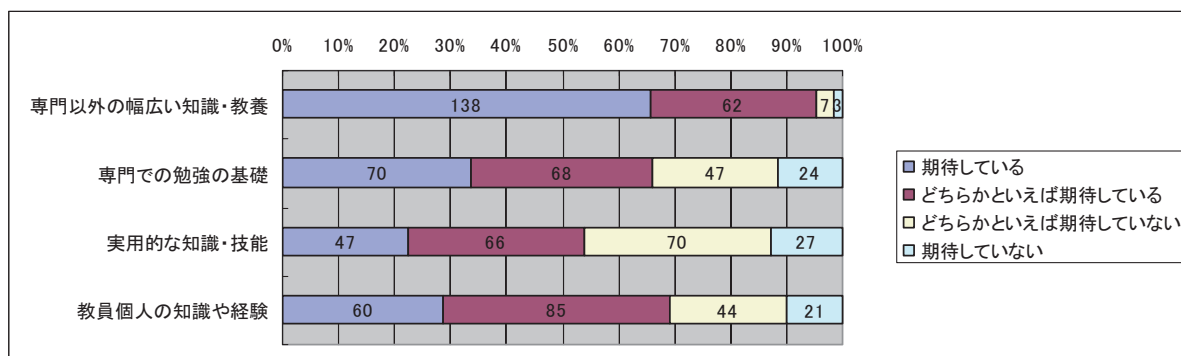


図5-1-2 全学共通科目に期待する内容（文系）

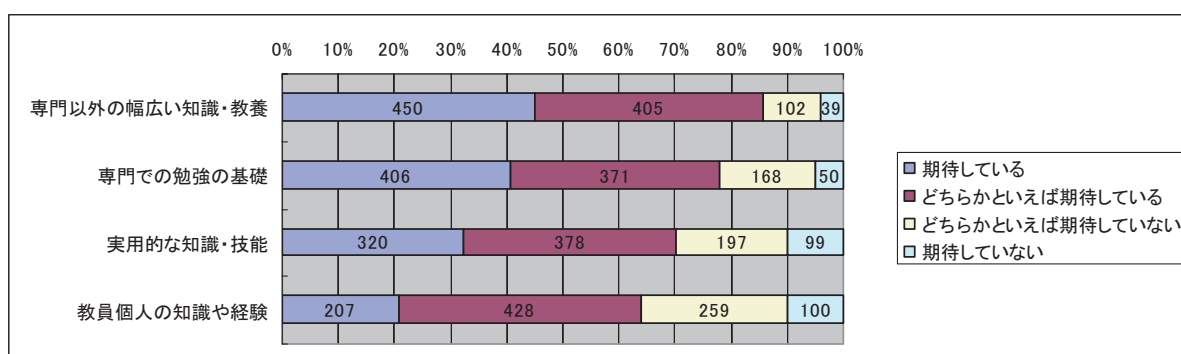


図5-1-3 全学共通科目に期待する内容（理系）

5.2 学習意欲と期待内容との相関

ところで、以上のような全学共通科目への期待内容は、第2節でみた学生の学習意欲とはどのように関係しているのだろうか。この点を明らかにするために、学習意欲（の変化）と期待内容との相関係数を算出した結果が、表5-2-1である。4つの時期を通じて、学習意欲の高い学生ほど、第1に「専門以外の幅広い知識・教養」、ついで「専門での勉強の基礎」および「教員個人の知識や経験」への期待が高いが、「実用的な知識・技能」への期待は学生の学習意欲の高低とはほとんど相関がないことがわかった。

	学習意欲			
	入学当初	前期半ば	後期開始	後期半ば
A. 専門以外の幅広い知識・教養	0.243**	0.176**	0.226**	0.223**
B. 専門での勉強の基礎	0.117**	0.110**	0.119**	0.159**
C. 実用的な知識・技能	0.048	-0.032	0.047	0.061*
D. 教員個人の知識や経験	0.084**	0.073**	0.141**	0.170**

** 1%水準で有意、* 5%水準で有意（両側検定）

表5-2-1 学習意欲と全学共通科目への期待内容との相関係数

5. 3 期待は実現されたか

問7 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。

- | | |
|--------------------|-----------------|
| 1 実現された | 2 どちらかといえば実現された |
| 3 どちらかといえば実現されなかった | 4 実現されなかった |

まず、この設問への回答の単純集計の結果を、図5-2-1に示した。

全体として、全学共通教育への期待が「実現された」「どちらかといえば実現された」という学生があわせて5割強にとどまり、「実現されなかった」「どちらかといえば実現されなかった」という学生があわせて5割弱存在するという数字は、全学共通教育の現状認識として、かなり厳しく受け止める必要がある（なお、この設問の回答に関しては文系・理系間に顕著な差異がみられなかったので、文系・理系別の図表は省略した）。

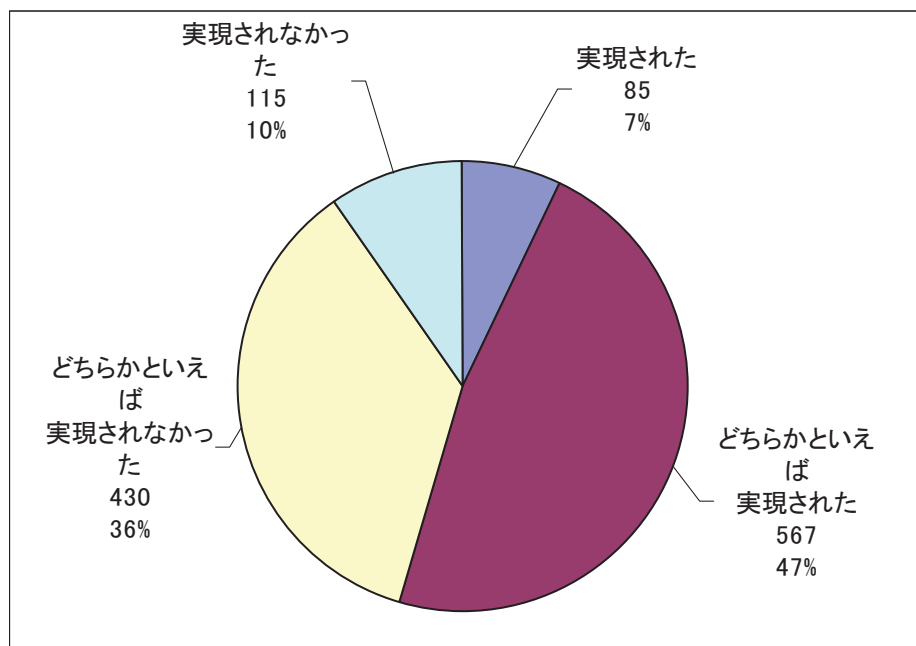


図5-2-1 全学共通教育への期待は実現されたか

5. 4 期待実現度と他の変数との相関

全学共通科目への期待の実現度を尋ねたこの設問は、本調査（2回生進級時アンケート）全体の中でも、京都大学の全学共通教育全体に対する学生の評価を知るという意味でとりわけ重要な変数である。そこで、この変数との関連が予想される他のいくつかの変数（設問）との相関を調べることによって、全学共通教育に対する学生の意識の構造を探ってみることにしたい。そこで、学生の学習意欲（問3）、成績評価への納得度（問5）および全学共通科目に期待する内容（問6）それぞれと期待実現度との相関係数を算出した結果が、表5-3-1である。

入学当初から後期半ばまでの4つの時期を通じて、学習意欲と期待実現度とのあいだにはいずれも正の相関があるが、後の時期になるほど相関が強くなっていることが注目される。これは、学習意欲を長く持続している学生ほど、全学共通教育に対する期待の実現度も高いということを示している（むしろ、そうした学生は、自分の期待が実現されたからこそ学習意欲を長く持続できた、と解釈するべきかもしれない）。

成績評価への納得度に関しては、全学共通科目の成績評価に納得している学生ほど、期待の実現度も高いという結果が示されている。これは、納得のゆく成績評価を得られることが、全学共通科目への期待が実現されるための重要な要因のひとつとなっていることを示唆している。

全学共通科目に期待する内容に関しては、「実用的な知識・技能」を除く3つの内容への期待と、期待の実現度とのあいだに正の相関があり、「専門以外の幅広い知識・教養」、「教員個人の知識や経験」、そして「専門での勉強の基礎」の順に、期待の実現度が高いということがわかる。すなわち、「専門以外の幅広い知識・教養」「教員個人の知識や経験」「専門での勉強の基礎」の3つに関しては、京都大学の全学共通教育は、学生の期待にある程度応えることができていると解釈してもよいだろう。

		全学共通教育への期待の実現度
学習意欲	入学当初	0.083 **
	前期半ば	0.223 **
	後期開始	0.259 **
	後期半ば	0.344 **
成績評価への納得度		0.353 **
全学共通科目に期待する内容	専門以外の幅広い知識・教養	0.184 **
	専門での勉強の基礎	0.152 **
	実用的な知識・技能	0.022
	教員個人の知識や経験	0.167 **

** 1%水準で有意（両側検定）

表5-3-1 学習意欲・成績評価への納得度・期待内容と期待実現度との相関係数

6 今後の全学共通教育への要望

問8 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべての番号に○をつけてください。最も強い要望一つには◎をつけてください。

- 1 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 2 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 3 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 4 授業にもっと熱意をもってほしい
- 5 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 6 成績評価の基準・方法をもっと明確にしてほしい
- 7 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 8 その他（)

この設問への回答の単純集計結果は、図6-1（全学部）、6-2（文系）、6-3（理系）に示したとおりである。

全体としては、◎（最も強い要望一つ）、○（任意選択）のいずれにおいても、最も多かった要望は「学生の関心により対応した内容」であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」「授業の進め方の工夫」「成績評価の基準・方法を明確に」の順となっている。

文系・理系別にみると、理系学生では全体とほぼ同じ傾向・順位となっているのに対し、文系学生では「学生の関心により対応した内容」が第1位である点は変わらないが、第2位は「授業の進め方の工夫」、第3位は「成績評価の基準・方法を明確に」（任意選択を加えた場合はこの2つが同数2位）となっている。両者を比較してみると、「学生の予備知識や理解度を考慮」という要望は理系において、「授業の進め方の工夫」「成績評価の基準・方法を明確に」という要望は文系において、それぞれ相対的により強くなっているといえる。

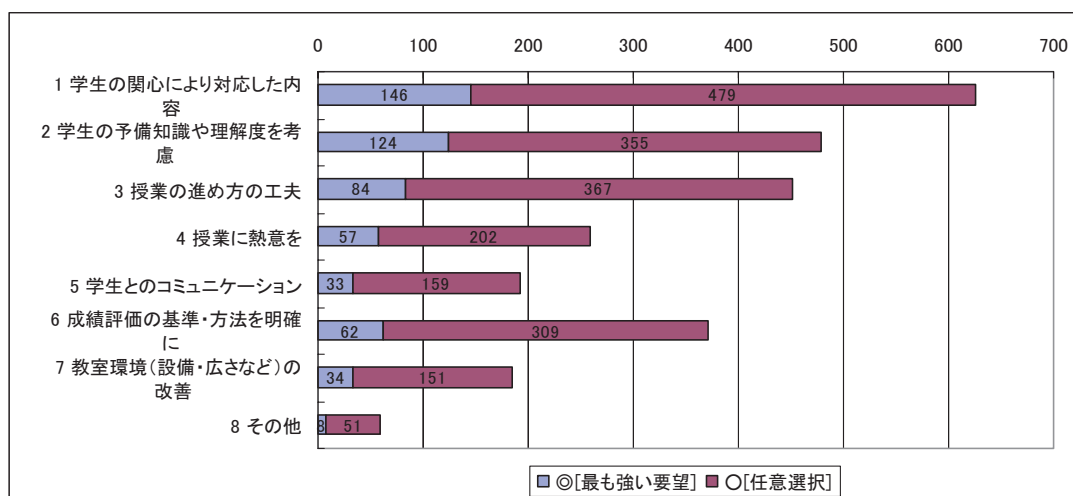


図6-1 今後の全学共通教育に対する改善の要望

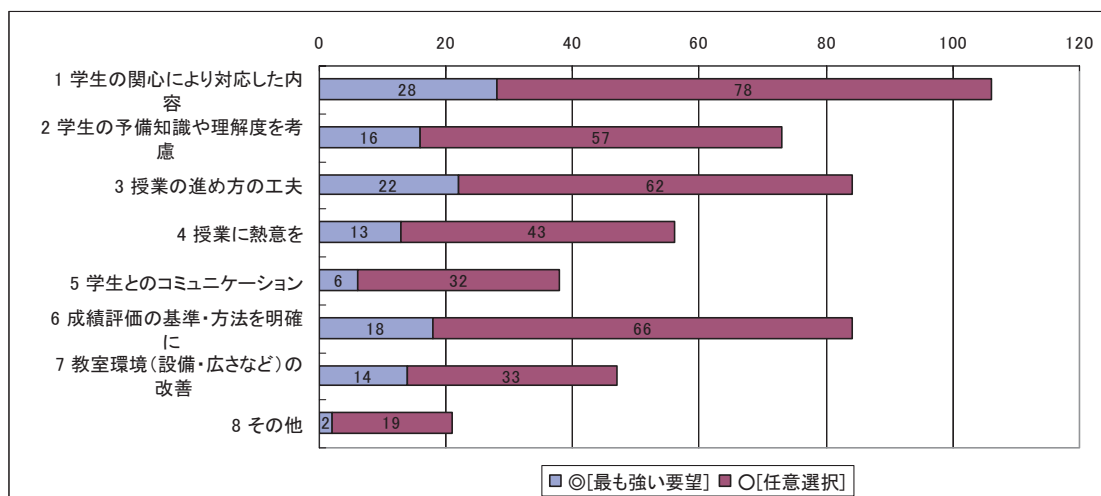


図 6 - 2 今後の全学共通教育に対する改善の要望（文系）

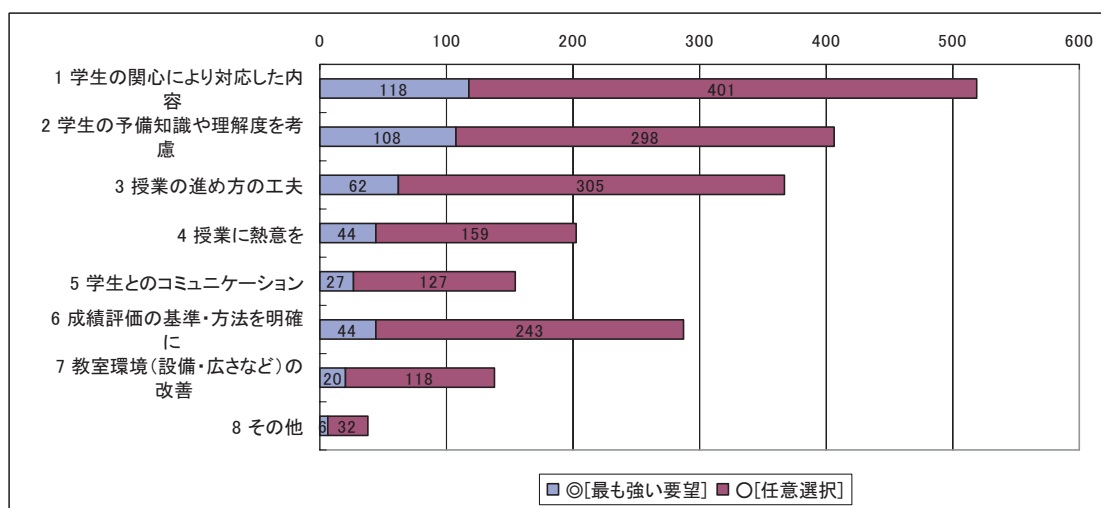


図 6 - 3 今後の全学共通教育に対する改善の要望（理系）

「8 その他」の自由記述は、上の図表に示したとおり量的には多くはないが、その中で比較的目についたのは下記のような要望であった。

■カリキュラム・授業内容に関する要望

- さすが大学での講義だと感じられる、高校段階から1歩も2歩も踏みこんだ内容も取り入れた授業をしてほしい【法・女】
- 非常勤講師をより活用するなど、学術的能力は教授や助教授に劣っても、興味深い授業を行ってくれる講師を増やして欲しい【法・男】
- フィールドワークを取り入れるものを増やす【理・男】
- 専門以外の幅広い教養を身につけるにあたって、様々な分野を「つまみぐい」できるような学際的な講義があるとおもしろそうです【工・男】
- 一部だが、もっと実用的なものも欲しい。特に専門で活用できそうなこと【工・男】
- 世間のニーズ・関心にも目を向けて【農・男】
- 学部科目の導入となるような全学共通科目をおいてほしい【文・男】
- 各学部・学科の専門科目のうち、基礎的なものについては、全共科目としてほしい【理・男】
- もっと学部科目の開放を【農・男】

■授業方法・教員のスキルに関する要望

- 課題を多めに出してイヤでも勉強するようにしてほしい【文・女】
- レポートや試験の返却をもっとしてほしい。プレゼンテーションを使うなら、その内容のプリントがほしい（ノートをとるヒマがない）【医・男】
- 板書するなら、せめて見える濃さで、きれいに書いて下さい。あと、図や写真以外は、パワーポイントはちょっと…（画面がすぐ変わってメモもとれないし、暗いので眠くなります）【薬・女】
- LL設備の教員の不慣れ、吉田南総合館の設備と教員のパソコンの不一致【理・女】
- プロジェクター、マイクを使えない先生が多いです【農・女】

■成績評価に関する要望

- 成績評価は甘すぎない方がいいと思う。なんとかなるかーと世の中をナメてしまいます【文・女】
- 「楽勝科目」と呼ばれるものの廃止【経済・男】
- 不正を取り締まってほしい。レポートをきちんと読んでいるのか疑問【工・男】
- シラバスに成績評価等をもっと詳細に書いてほしいです【総人（理系）・男】
- 単位をもっと楽に取らせて欲しい【法・男】

■時間割・シラバス・教室・設備等に関する要望

- シラバスの説明の充実・授業時間の調整【総人（文系）・女】
- 一限の授業を増やしてほしい【教育・女】
- 少人数のクラスを増やしてほしい【経済・女】
- 一コマごとの受講者の数が少なくなるようにしてほしい【理・男】
- あまりに人数の多い授業は抽選して人数を減らしてほしい。試験近くやレポート提出の時だけくるうるさい輩が相対的に減ると思う【農・男】
- 立見が出る授業は前年度を参考にして、あらかじめ大教室を用意してほしい【経済・男】
- 教室の広さ、授業形態等制約があるのはわかるが、極力すべての希望者が受講できるよう、人数の多い講義は開講数を増やす等してほしい【農・男】
- 授業の中で学生と教師が自由に話し合えるような机・椅子の設備を希望。たとえば向かい合って座ったりできるように、机・椅子の移動が自由にできるようにしてほしい【文・女】

■クラス指定制度等に関する要望

- スポーツ実習をクラス指定にしないでほしい。とりたい種目がなかったり、とりたい他の授業を重なってしまったりした【教育・女】
- B群に指定が多く、興味のある授業が増加単位にしかないのを何とかしてほしい【工・女】
- 推奨科目などの受講科目の指定をゆるめて欲しい【農・男】

■（少数ではあるが）全学共通教育の意義そのものを否定する記述

- あまり意義が見出せないので廃止してはどうか【教育・女】
- そもそも専門の勉強をするために大学に来ているのに、第二外国語やA群など、無駄な授業が多すぎる【工・男】

7 自由記述より

問9 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

これは2回生進級時アンケートの最後のページに設けられた設問であり、大きめの空欄に全学共通科目に対する感想などを自由に記述できるようになっている。大半の学生は自由記述に回答しており、その多くはかなりの分量だった。アンケート用紙を家に持ち帰って書いた学生が多いことがその要因だろう。ただ工学部と医学部の学生の多くは（「はじめに」で述べたとおり）成績表交付時にその場で記入してもらったため、全体的に自由記述欄への記述量は少なかった。以下、学生の記述が多い項目を中心に紹介していく。

■全学共通教育のメリットについて

下記のように、「全学共通科目の多様性」「講義選択の自由さ」「多様な学生との交流」を評価する声が多かった。

- 文系で入学したものの、全学共通科目で理系の勉強もしてみても高校の時よりも興味の幅が広がりました。【総人（文系）・女】
- 人文系の科目を履修することに、最初は抵抗を感じたが、実際に受講してみると大変興味深い内容のものがああり、楽しく受講することができた。【工・男】
- 今までと違った新しいものの見方を身に付けることができました。【総人（文系）・女】
- 自由に講義を選べる、出席をあまりとらない、単位が比較的取りやすいなど、理想の環境で勉強できました。【文・男】
- いろいろな分野の科目を履修してみました。もちろんその中にはあまり興味の持てない授業もありましたが、それが逆に、自分の好きな科目、興味をもてる学問分野を知る手がかりとなったように思います。【文・女】
- 他学部の人もいるため、自分と全く異なった考え方に触れる機会もあり、面白いと思った。【文・女】

■教員について（肯定的意見）

下記のように、全学共通科目を担当する教員に対する積極的な評価があった。全学共通教育で最も重要なのは授業を実際に担当する教員であり、教員への評価が高ければ全学共通科目そのものへの評価も高くなるのは当然であろう。

- 自分の体験談、裏話をして下さる時が一番面白く、またその内容にひきつけられ、考えさせられることもあり、一話完結のそんな短いストーリーの中に教養というものを感じさせられました。【経・男】
- 良かったのは、京大の先生方のユニークな考え方、新しい価値感などを学べたことです。【法・女】
- 実際にその分野での研究者が目の前にいる生きた講義ならではの楽しさ、発見は必ずあると思う。【農・男】
- 教授自身の考え方、個性、ものの見方といったものが如実に表れているような授業の方が、興味を刺激されて楽しみながら積極的に聴けました。【総人（文系）・男】
- 教授とのコミュニケーションが図れたときや、興味のある講義をきけたときは、勉強への意欲、楽しさを覚えた。【文・女】

■教員について（批判的意見）

上記とは逆に、教員に対する不満の声も少なくない。とくに「熱意」の不足についての指摘は、学部を問わず多かった（これは、アンケートの中に教員の熱意を尋ねる質問があったことが、要因の1つとも考えられるが）。

- 授業に対する熱意や準備が不十分な先生が多い。【教育・女】
- 人にもよるが、講義の内容が聞き取れないほど声が小さかったりした。せめてマイクを使うなどしてほしい。【工・男】
- 延長するぐらいなら遅刻しないで下さい。【総人（文系）・女】

■カリキュラム・授業内容について

下記のように、理系科目については学生の予備知識（とくに数学）への配慮を求める意見がみられた。また、第二外国語必修に対する疑念もあった。

- 授業でまだ習っていない数学の知識を知っているものとして授業が進められたので、キツかった。理系科目の教官には、現在の高校や大学初年級での数学のカリキュラムをもっと知ってほしい。【総人（理系）・男】
- 数学をどんなに勉強してもついていけなかったです。授業内容とテスト内容のレベルの差も非常に大きかったです。【経・女】
- 教官の方には、学生が高校卒業時に持っている知識はどのくらいなのかをきちんと把握しておいていただきたいです。また、新しい概念（例えば数学の面積分など）を導入する際の説明をもう少し詳しくしていただきたいです。【工・男】

- 専門的と思われる知識を羅列するだけで講義が終わることが多かった。【文・男】
- 第二外国語の強制は学生に全く無意味な負担を強いているだけで無駄である。全学生に第二外国語を学ばせる必要性が全く理解できない。【総人（理系）・男】

■成績評価について

自由記述全般において、成績評価に対する不満はとくに多かった。とくに「出席」の扱いについては賛否両論だった。また成績評価の透明性を求める声もあった。

- ちゃんと授業に出席していたのに、全く出席しなかった友人が優をもらい自分は良かった。いかにてきとうな成績のつけ方か。【総人（文系）・女】
- 授業への出席度や学習に対する真剣さが成績に反映されない講義が多い。【法・男】
- 出席をとって成績に加味してほしい。【文・女】
- 出席を全ての授業でとってほしいと思う。真面目な人がバカを見ている。【教育・女】
- 出欠をとるのはやめてほしい。授業に出席しないで勉強した人もいるから。【総人（理系）・女】
- 京大がやるべきことは、勉強をやる気がある人に、十分自由に勉強できる環境を与えることである。出席をとるとなると、本当に勉強する気がない人が来て、授業が妨害される。【経・男】
- 大学生なのだから、学習というのは自主性を第一において差し支えないと考えている。出席をとったり、眠っている人を起こしたり或いは学生に意見を求めたりする必要は全くないと思う。【法・男】
- 成績評価の不透明さ（全てのテストが返却されないこと）など、基本的な部分で失望してしまいます。【理・男】
- どうして落とされたのか、何がダメだったのか、そののところをはっきりさせて欲しいと感じました。【経・男】
- 成績評価の基準が不明であるのは論外ではないか。【工・男】
- 卒業要件が厳しいと留年を恐れて授業選択の幅が狭まる。【理・男】

■時間割・シラバス・教室・設備等に関して

授業や教員以外の、いわば「ハード面」に対する意見としては、シラバスや授業の開講曜時限について、そして教室等の設備に関するものがあつた。

- 授業紹介をもう少し授業に忠実に書いてくれるとうれしいです。【工・女】
- シラバスの授業内容の欄に、扱うテーマに加えて先生方がどんな学生を対象とされているのか、というコメントがもっと増えれば良いと思います。【農・男】
- 一部教室のキャパシティが不足しているにもかかわらず前期、後期とも場所が変わらず不自由

したこともあった。【工・男】

○学期はじめの一番向学心がある時期（特に1回生の4月）に、教室に人が入らず授業が聞けないのが不満でした。授業を聞く権利があるのに、と。【総人（文系）・女】

○曜日や時限によって開講されている授業数に大きな隔たりがあるのはどうかと思う。【文・女】

○とりたい授業が同じ時間にいくつも重なっていることがあって残念だった。可能な限り同科目を複数時間開講してもらいたいです。【法・男】

○Pゼミはとても楽しく感じられたので、もっとPゼミを広げて2回生や1回生の後期でも取れるようにしてほしい。【工・男】

■クラス指定制度について

下記のように、クラス指定制度のために自由な科目選択ができないことへの不満がみられた。

○クラス指定科目の為に、取りたいと思った科目が取れないことがある。【理・男】

○語学のクラス指定制には少し不満がある。クラスによって授業の難易度や単位の取りやすさが違うのは納得できない。自由に授業を選べた方がよかったと感じた。【文・女】

おわりに

平成 17 年度 2 回生進級時アンケートの結果はほぼ以上である。まずここで、回答結果の分析から得られた知見を、下記のように要約しておこう。

■学生の学習意欲

- ・学生の学習意欲は入学当初が最も高く、学期が進むにつれて少しずつ低下している。
- ・学習意欲の高い学生ほど、出席コマ数が多く、授業外学習時間も長い。

■授業への満足・不満の要因

- ・授業への学生の「満足」感を最も大きく規定する要因は、授業の内容そのものに対する興味・関心である。
- ・授業への学生の「不満」感を規定する要因としては、授業の進め方の工夫、学生の予備知識・理解度への考慮といった技術的要因が比較的多くを占めている。
- ・A群科目においては授業の内容への興味関心が、B群科目においては学生の予備知識・理解度への考慮が、それぞれ「満足」「不満」を規定する重要な要因になっている。

■成績評価への納得度

- ・回答した学生の過半数が、成績評価に納得できない科目があったと考えており、その理由は、「成績評価の基準・方法が明確に示されていない」が最も多い。

■全学共通科目への期待

- ・学生が全学共通科目に期待している内容は、「専門以外の幅広い知識・教養」「専門での勉強の基礎」「実用的な知識・技能」、「教員個人の知識や経験」の順に多かった。
- ・ただし、学習意欲の高い学生の期待は「専門以外の幅広い知識・教養」「専門での勉強の基礎」「教員個人の知識や経験」に主として向けられており、「実用的な知識・技能」への期待は学習意欲の高低とほとんど相関がなかった。
- ・全学共通教育への期待が「実現された」または「どちらかといえば実現された」という学生は5割強にとどまっている。
- ・全学共通教育への期待の実現度を規定する要因としては、学生自身の学習意欲の持続、および納得のゆく成績評価を得られることがあげられる。

■今後の全学共通教育への要望

- ・最も多かった要望は「学生の関心により対応した内容」であり、ついで「学生の予備知識や理解度を考慮」「授業の進め方の工夫」「成績評価の基準・方法を明確に」の順となっている。

最後に若干の補足をおきたい。

まず今回の報告書の限界についてである。この報告書では、調査によって得られたデータをフィードバックし、学生の意識について考える手がかりを提供することを第一の目的にした。そのためデータに関する解釈にまでは十分に踏み込めていない。例えば、多くの学生の求める教員の「熱意」について、学生が考える「熱意」とはそもそも何を意味するのかなど、議論の余地があるだろう。このように個々の調査結果について検討の余地は大いにある。

次に、今回のアンケート調査における数値データや自由記述が、学生全体の意識を正確に表現しているとは限らないことに注意する必要がある。「はじめに」で述べたように、学部によって回収率に大きな偏りがあることは無視できない。また自由記述に回答した学生は学生全体からみると比較的少数であり、自由記述での意見が少数意見だという可能性も否定できない。

以上のように今回のアンケート結果（とくに自由記述の内容）を鵜呑みにすることは避けるべきである。しかしながら、以上の諸点を考慮した上でも、今回寄せられた学生の意見に耳を傾ける価値は十二分にあるだろう。2回生の4割以上の学生が回答し、しかも自由記述欄にも長文の熱心な回答がみられた。これらは全学共通科目に対する期待や不満の表れであると思われることができるだろう。全学共通科目をはじめとした大学教育の改善に取り組んでゆく際、今回得られた学生の生の声は大いに参考になると考えられる。

最後に、新学期の大変忙しい中アンケートに回答してくださった学生の皆さんに謝意を表したい。

整理番号

2 回生進級時アンケート

平成17年4月
京都大学高等教育研究開発推進機構

この1年間の大学生活の中で、京都大学の教育に対してどのような感想を持たれたでしょうか。このたび、2回生に進級された皆さんを対象としたアンケート調査を実施することにいたしました。今回のアンケート調査用紙とあわせて、1年前の新入生ガイダンスの際、入学にあたっての抱負とガイダンスを受けての期待などを自由に記述願ったアンケートを同封しますので、それを参考に、この1年間の全学共通科目を中心とした学習に対し、どのように感じあるいは考えたか、率直な意見をお聞かせください。

記入後のアンケート用紙は、同封の返信用封筒に厳封のうえ、4月28日（木）までに、共通教育教務掛前のレポートボックスに投函、もしくは郵送にて送付願います。郵送の場合の料金は受取人払いとなっていますので、切手を貼らずに投函して下さい。

なお、アンケートには氏名や学籍番号など、記述者を特定する情報を記入する必要はありません。回答は統計的に処理され、個人を特定するもしくは個人に関わる情報は完全に保護されます。また調査結果は本学の教育改善のための資料とするもので、目的以外に使用されることはありません。

本アンケート調査は、機構において授業改善の資料として活用するほか、報告書等に取り纏める予定です。

(問い合わせ先)
共通教育推進部共通教育計画掛
TEL : 075-753-6513
FAX : 075-753-6691

*** 記入上の注意 ***

1. 質問は、下記の問1から4ページの間9までです。
2. 特に指定のない場合は、最も当てはまる項目1つだけを選び、番号に○をつけてください。
3. 右上の「整理番号」欄には記入しないでください。

問1 あなたの性別をお答え下さい

- 1 男 2 女

問2 あなたの所属学部をお答えください（総合人間学部は、人間科学系・国際文明学系・文化環境学系の方は「文系」、認知情報学系・自然科学系の方は「理系」を選んでください）。

- | | | |
|--------------|--------------|--------|
| 1 総合人間学部（文系） | 2 総合人間学部（理系） | 3 文学部 |
| 4 教育学部 | 5 法学部 | 6 経済学部 |
| 7 理学部 | | |
| 8 医学部 | 9 薬学部 | 10 工学部 |
| | | 11 農学部 |

問3 あなたの入学以降の学習についてお尋ねします。入学当初から1回生後後半ばまでに、あなたの①学習意欲、②一週間に出席した授業のコマ数、③授業外の学習時間（授業の予復習や学術書・教養書の読書を含む）がどのように変化したかについて、右の「作成例」を参考にして表を完成させてください（学習意欲については、下記の5つから選択して番号を記入してください）。

(学習意欲) 1. 非常に意欲あり 2. まあまあ意欲あり 3. どちらともいえない
4. あまり意欲なし 5. まったく意欲なし

(作成例)

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初		コマ	時間
前期半ば		コマ	時間
後期開始		コマ	時間
後後半ば		コマ	時間

時期	学習意欲	授業出席コマ数/週	授業外学習時間/日
入学当初	1	15コマ	1.5時間
前期半ば	2	〃	〃
後期開始	2	4コマ	3時間
後後半ば	2	〃	〃

*あまり深く考えず「平均」「おおよそ」でご記入ください

問4 あなたが1回生のときに履修した全学共通科目についてお尋ねします。

A. あなたがとくに満足した科目をいくつか思い浮かべてください（もし満足した科目がなければBに進んでください）。下記の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・科目名をご記入ください。また、それぞれの科目に満足した理由について、あてはまるすべてのものに○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時限	曜日 時限	曜日 時限	曜日 時限
科目名			
満足した理由	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった	1 授業の内容が興味深かった
	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた	2 学生の予備知識や理解度をよく考慮してくれた
	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた	3 授業の進め方に工夫がみられた
	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた	4 担当教員の熱意を感じた
	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた	5 成績評価の方法や結果に納得できた
	6 その他	6 その他	6 その他

B. あなたがとくに不満だった科目をいくつか思い浮かべてください（もし不満だった科目がなければ問4に進んでください）。次頁の表に、それらの科目（3つまで）の開講期・曜日時限・

科目名をご記入ください。また、それぞれの科目に不満だった理由について、あてはまるすべての箇所に○を（最も重要な理由一つには◎を）ご記入ください。

	科目①	科目②	科目③
開講期	前期・後期・通年	前期・後期・通年	前期・後期・通年
曜日・時限	曜 限	曜 限	曜 限
科目名			
不満だった理由	1 授業の内容に興味をもてなかった	1 授業の内容に興味をもてなかった	1 授業の内容に興味をもてなかった
	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった	2 学生の予備知識や理解度を考慮してくれなかった
	3 授業の進め方に工夫がみられなかった	3 授業の進め方に工夫がみられなかった	3 授業の進め方に工夫がみられなかった
	4 担当教員が不熱心だった	4 担当教員が不熱心だった	4 担当教員が不熱心だった
	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった	5 成績評価の方法や結果に納得できなかった
	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった	6 教室環境（広さ・設備など）に問題があった
	7 その他 ()	7 その他 ()	7 その他 ()

問5 1回生時の全学共通科目の成績評価についてお尋ねします。

A. 個々の科目の成績評価について、納得できなかった場合、その理由は何ですか。あてはまるすべての番号に○を（最も重要なものには◎を）付けてください（成績評価に納得できない科目が一つもなかった場合は、6を選んでください）。

- 1 成績評価が厳しすぎる
- 2 成績評価が甘すぎる
- 3 成績評価の基準・方法が学生に対して明確に示されていなかった
- 4 成績評価の基準・方法が不公正である
- 5 その他 ()
- 6 成績評価に納得できない科目はなかった

B. 全体として、自分の成績評価に納得していますか。

- 1 納得している
- 2 どちらかといえば納得している
- 3 どちらかといえば納得できない
- 4 納得できない

問6 あなたは全学共通科目で学ぶ内容として、次の各項目をそれぞれの程度期待していますか。

	期待している	どちらかといえば期待している	どちらかといえば期待していない	期待していない
A. 専門以外の幅広い知識・教養	1	2	3	4
B. 専門での勉強の基礎	1	2	3	4
C. 実用的な知識・技能	1	2	3	4
D. 教員個人の知識や経験	1	2	3	4

- 問7 全体として、あなたが全学共通教育に対して抱いていた期待は実現されましたか。
- 1 実現された
 - 2 どちらかといえば実現された
 - 3 どちらかといえば実現されなかった
 - 4 実現されなかった

問8 今後の全学共通教育に対して、どのような改善を要望しますか。あてはまるすべての番号に○をつけてください。最も強い要望一つには◎を付けてください。

- 1 学生の関心により対応した内容の授業をしてほしい
- 2 学生の予備知識や理解度をもっと考慮してほしい
- 3 授業の進め方をもっと工夫してほしい
- 4 授業にもっと熱意をもってほしい
- 5 学生とのコミュニケーションをもっととってほしい
- 6 成績評価の基準・方法をもっと明確にほしい
- 7 教室環境（設備・広さなど）を改善してほしい
- 8 その他（）

問9 あなたは、1年間全学共通科目を受講して、どんなことを感じ、どんなことを考えましたか。自由にお書きください（たとえば、勉強における悩みや不満、その解決策、あるいは楽しさ・感動など、何でも結構です）。

***** 質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。*****



平成 17 年度
2 回生進級時アンケート
報 告 書

平成 18 年 3 月 発行

編集 京都大学高等教育研究開発推進機構

京都大学高等教育研究開発推進センター

・京都大学教育交流会プロジェクト・学生意識調査ワーキンググループ

全学共通教育カリキュラム企画開発部門 教授 吉田 純

高等教育教授システム研究開発部門 教授 大塚雄作

法学研究科修士課程 2 回生 駒井健二郎

総合人間学部 2 回生 吉安亮介

理学部 1 回生 森田昌樹

発行 京都大学共通教育推進部

〒606-8501 京都市左京区吉田二本松町

Tel 075-753-6513
